

2011
(H29)
長月号 9/25
40-292-

右馬允だより

朝が寒くなり箇所箇所が薄紅葉が見られるようになりました。小笠原のすすきの穂が美しいなアと思ってるうちに目を転ずれば紅葉も始まっています。日に日に秋が深まってることを知ります。早朝の頃の青田が5ヶ月後には黄金の突ける稲穂になり刈り入れを済ませた田んぼが目立ちます。右馬允の庭も栗の実。いかで馬蚤々しい限りです。きのこ料理をお目当てのお客様も連日です。この頃の栗の世話には99年になる反子母の仕事と別。毎日栗作業に追われる母です。こんな夕目の前になるとおはアその価値は低く別。反子母に送っても大変だろうと思う気持ちの才が先に立ち、お礼送るべく居る自分に気がつきませす。貴重な栗に干してことと言うのととめる自分の明らかになるのに——。夜も寝ないで栗仕事をしなさいと何に合っでいかないかにこんななかなかな出来が居る自分がいて

残念というの辛いところです。

直虎や七人の侍でお目にはお目にはばかりの山本學さんから9月14日から倶楽部右馬允で自主トレの為にいらしてって毎日かうんい私たちです。また3人の子とち違々小学生の頃「畏」という舞台に備えてトレニングに倶楽部を使っていたのが最初でした。合間にお連れしたきのこ狩り。さくらしめじか円を描いてお揃った光景を見ていた。お二人はもちろん私たちもとちもうんいかけたのと思おします。五介さんより一回り上の子おんいつとんおアアかやってくるかもと思うと^(おすみ)學さん頑張っています。朝のトレニングは我が家の愛犬「公」がお供して行きます。身体に自信がついたところで東京にお帰りにされること事です。

允、充が松茸探しに山へ出かけますかまだまだのようで生田のおはちんから買って来ませす。3日前から松茸^{くだ}んしか始まりました。今朝庭の金木犀の香りを嗅がました。驚きと喜びが——。いよいよ松茸本番です。年に一度の贅沢としゃり楽しんでいたける量を期待しながら香りを胸いっほい吸い込みました。